

## 日臨技第二次未来構想の全容

◎菊地 良介<sup>1)</sup>  
岐阜大学医学部附属病院<sup>1)</sup>

【構想背景】未来社会は、多岐にわたる要素が複雑に絡み合いながら形成される社会構造であり、正確な全体像を予測することは容易ではありません。しかし、医療の一翼を担う臨床検査技師の働き方を含め、医療施設内外における“臨床検査のあり方”に関する未来構想を早期に構築する必要があります。

【構想趣旨】人工知能技術の急速な進化に代表されるように、臨床検査の分野にも実装が予測される技術は、より高度化され、その利用法も深く問われることになることが予測されます。医療もそれら新しい技術を基に、さらに複雑化、専門化していくことは間違いありません。それぞれの専門的な知識を身に着けた臨床検査技師（会員）が集まる当会は、まさに部門分野の枠にとらわれず、時代の変化に応じて、柔軟かつ多様性をもって、会員個々の自由な職域を選択し、提供できる職能団体として充実する必要があります。

【構想の基本コンセプト】今回、未来構想を練る中で、私たちは内閣府が提案している“ムーンショット目標”を参考にしました。ムーンショット目標は、2050年までの達成を目標としており、全ての目標は「人々の幸福」の実現を目指すとし掲げられています。そこで私たちは、未来構想事業の一環として、「臨床検査のムーンショット目標」を策定し、多様性に富んだ臨床検査に関わる人材を広く集め、アイデアを募り行動を起こしたいと考えました。

【構想の事業展開】構想の事業展開を行う上で、①データサイエンス人材育成、②多様性および継続性ある医療社会にするための総合研修、③医師と患者の橋渡しができる臨床検査技師育成 -OTC 検査対応を中心に-、④医療におけるコーディネーターとしての臨床検査技師の創出、⑤次世代カルテシステムの構築、⑥仮想空間と現実空間を高度に融合させた Society 5.0 システムに関する研修、⑦宇宙医学への臨床検査の意義創出と無重力空間での検体室創出、⑧動物病院への職域拡大に向けた研修、⑨クラウドファンディングによる日臨技と産学連携による移動検査室構想-患者が動く医療提供から医療者が動く医療体制の構築-、⑩日臨技仮想空間によるメタバース創出、⑪日臨技と産学連携による街のワンコイン検体測定室の創出、⑫総合医療検査技師（仮称）の創出 -現行の臨床検査技師からの脱却を目指して-、⑬臨床検査技師養成校の科目承認制から指定校制への移行の13項目を重点事業案として検討を進めたいと考えています。

【まとめ】当会は、2023年6月に創立70周年、法人化60周年の節目を迎えました。会員数も7万人を超え、臨床検査技師の職能団体として確固たるものを築き上げました。今後も臨床検査業界を牽引し、医療を支える人材を確保・育成していくうえで、未来を担う若い会員に向けて将来を見据えた提案をしていかなくてはなりません。さらなる業界の発展を目指すためには、現状想像しうる最大限の可能性を引き出し、その実現に向けた検討を、今直ぐにでも始めなくてはなりません。今後、医学をはじめ、科学技術の進歩は著しく、今までにないスピード感で実装化していくためのアイデアが問われると思われまます。臨床検査技師の近未来はこの加速度性と波及性に適応した新たな人材を創ることにあると考えます。わたしたちは『検査で社会を変えたい』を念頭に、これらの課題に向き合いたいと考えています。

連絡先：058-230-7249